

いたわる

トーチ症候群

全国的な風疹の流行で、妊婦が感染すると胎児に難聴や心疾患などが起こる母子感染の一つ、先天性風疹症候群が心配されている。母子感染には、風疹以外にも妊娠中の人がウイルスや細菌、寄生虫などに感染し、たとえ無症状や軽症でも胎児に影響が及ぶものがあり、それらは主な原因微生物の頭文字をとってトーチ(TORCH)症候群と呼ばれている。どんなものがあるのだろうか。

妊娠中の感染に要注意

TORCHの「T」は、トキソプラズマ症、「R」は風疹、「C」はサイトメガロウイルス(CMV)、「H」は単純ヘルペスウイルス、前後して「O」はその他で、特に梅毒が重要だといわれている。

安曇野市の県立子ども病院で講演したウイルス学が専門の名古屋大学大学院医学系研究科・木村宏教授は、トーチの中でも最も多いのはCMVによるもので「胎児の0.3〜0.4%が感染している」と話した。

成人の感染率は70%前後といわれるほど身近なウイルスで、多くの人が乳幼児期に子供同士の遊びの中で唾液



母子感染に注意を呼びかけるトーチの会のチラシ

木村教授は「衛生状態が改善して妊娠年齢まで感染しない女性が増えていて、今後増える懸念がある」とし、「早期診断早期治療が望まれるが看過される例もあり、小児科や産科、耳鼻科への啓発が必要」と話した。予防法は、乳幼児に接する妊婦は食器の共通感染したばかりの猫の

十分に加熱した肉だけを食べ、生肉を扱った後の調理器具の消毒や手洗いを心がけることや、手袋やマスクなしの土いじりや猫のトイレ掃除を避けることなどが重要とされる。

東京都の歯科医師、渡辺智美さん(32)は、トキソプラズマ症の子供を一年前出産したのを機に昨年、患者会「先天性トキソプラズマ&サイトメガロウイルス感染症患者会『トーチの会』」を設立、悲しい思いをする母子を減らしたいとの強い願いで活動する。渡辺さんは「トキソプラズマとCMVは知識さえあればある程度予防できる。日本にワクチンや治療薬がないので妊婦は自分で身を守るしかない。まずは自分に抗体があるかないかを調べて」と話す。

トーチ症候群の中でもワクチンがあるものはわずかで、妊婦健診でも抗体が調べられないものが多いのが現状という。渡辺さんは「悲しい思いをする母親がこれ以上増えないことが子供を感染させてしまった母親たちの願いで、それが救いになる」と、予防に向けた妊婦健診の必須化運動や妊婦への注意喚起に力を入れている。

元気がよ

アレルギー用ミルクで皮膚炎に!?~普通ミルクや大量の生卵でも~

アレルギー用ミルクは、乳タンパクにアレルギーを持っている赤ちゃんのための製品です。実はこのミルクにはビオチンと呼ばれる栄養素が、必要量に比べてかなり少ない量しか含まれていません。

ビオチンの摂取量が不足すると、目や口の周り、オムツのなかの皮膚に、塗り薬を使用しても治りにくい湿疹ができたり、頭の毛が抜けたりします。乳児期にミルクアレルギーの診断を受け、アレルギー用ミルクに変更したにもかかわらず、皮膚の状態が悪化していく場合は、ビオチン欠乏症である可能性も検討しなければなりません。

アレルギー最前線

ビオチンは水溶性ビタミンの一種で、ビタミンHと呼ばれることもあります。体内の糖の代謝などに関与しています。普通の乳児用ミルクにもビオチンはやや不足しています。母乳不足のためミルク栄養にしてから皮膚が荒れ気味になった場合も、軽度のビオチン欠乏症が生じている可能性があります。ビオチンの不足は、医師が処方して治療することができますので、ご心配な場合は、まずかかりつけの医師にご相談ください。

余談ですが、生の卵白を連日大量に摂取すると、大人でもビオチン欠乏症を生じる場合があるとされています。大人の場合は日常食べている食品にビオチンが必要量含まれており、腸内細菌も産生してくれるので、普通は欠乏症にはなりません。ところが、生卵白にはビオチンと強固に結合する成分が含まれており、食べた量に比例して腸管からの吸収量が減ってしまいます。映画「ロッキー」に出てくるシルヴェスター・スタローンの真似をして、生卵を毎日10個も飲みながら体を鍛えたりすると、口の周りが荒れて、毛が抜けてしまうかもしれませんのでご注意ください。

(協力:みのしまクリニック)

健康アドバイス

PM2.5と呼吸器疾患

飛来するため注目されています。本年2月に注意喚起のための暫定的な基準値が「1日平均70µg/立方メートル」と定められました。長野県内の定点観測では10µg/立方メートル程度であり、現在のところPM2.5にさらされた場合です。呼吸や肺がんの患者が多いといわれています。有名なのは、四日市喘息や車のディーゼル排気物質による喘息ですが、いずれも長期にPM2.5にさらされた場合です。呼吸器・感染症内科准教授・花岡正幸

微小粒子状物質PM2.5とは、大気中に浮遊している2.5µm以下の小さな粒子のことで、工場のばい煙や車の排気ガスに含まれる大気汚染物質の一つです。PM2.5はもとも日本の大気中にも存在しますが、経済活動が活発な中国で多量に発生し、わが国にPM2.5の濃度の高い地域に、PM2.5が厄介なのは、髪の毛の30分の1程度と非常に小さいため、肺の奥まで入りやすいことです。そのため、喘息や慢性閉塞性肺疾患(COPD)、肺癌などの原因や悪化の要因となります。PM2.5の濃度の高い地域に、病気がPM2.5を吸い込むと、喘息発作やCOPDの悪化(増悪といいます)を引き起こす可能性があります。大気中のPM2.5濃度が暫定基準を超えるおそれがあるときは、注意喚起のための情報が発信されます。このような場合は、不要不急の外出を減らしたり、屋内においても窓の閉を最小限にするなどの対策が求められます。PM2.5の濃度が一時的に基準値を超過しても、健康な方への影響はほとんどありませんが、喘息やCOPDなど慢性的な呼吸器疾患のある方は注意が必要です。(信州大学医学部内科学第一講座 呼吸器・感染症内科准教授・花岡正幸)